



新元号「令和」の発表とともに、新年度がスタートしました。新入生356名も迎えました。新たなスタートを切るとき、過去の足跡をもう一度なぞってみることはとても大切なことだと思います。なぜなら、そうすることで、今までの自分から、これからの自分を想像し、次の一歩を見極めることができるからです。そして、その見極めと決断が、覚悟となり、人が歩み続ける大きな、揺らがない布石となります。

始業式では「変化をものにしよう」と話しました。時代の大きな節目となる今年は生涯記憶に残る年となるでしょう。だからこそ、その時間の使い方を自分のものにすべきだと思うのです。この記念すべき365日をどう使ったのかしっかり思い出に刻んでほしいと思います。百合丘高校も、55分授業に変わり、携帯電話の授業時使用の指導、ピアス装着禁止指導が始まりました。また、今年度は体育祭の時期の変更やテストが5回実施になるなど、変化が続きます。今の在校生はそのすべての変化を経験しています。そんな時期に巡り合えたからこそ、高校生活の思い出にまた色が添えられるわけです。

「どのように時間を使っていくのか・使ったのか」それが生き方勉強のすべてといってもいいのではないのでしょうか。「時間を戻すことはできず、今見える未来に悔いを残さないこと。やれることはやる！気分で立ち止まらない。人のせいにしない。進むならしっかり進む。自分の時間を自分で満たしてほしい。」と思います。そしてその時間こそが、「自分自身」を生み出すのだと思います。

学校でも、百合丘で過ごしている時間を実感してもらえる機会として、昨年度から授業時の目標提示や「進路通信」の発行など、伝えるべきことをきちんと伝える取り組みをしています。先生と生徒がつながることは、学校本来の姿です。学校全体でつながり、そこから、生徒たちの思い、思考、行動へとつなげてほしい。その時間すべてがともに生きる時間です。今年度はどんな行動を起こすのか。何を見せてくれるのか楽しみです。